

スポーツ選手の練習施設

「濁河温泉・高原スポーツ・レクリエーションセンター(仮称)」 来夏オープンを目指して

— 「岐阜県御嶽少年自然の家」の再利用計画 —

▽高地トレーニング

空気の薄い高地でトレーニングすることで、心肺機能を強化することができる。高地ではより少ない運動量で平地並みの効果が期待でき、長距離を走っても疲れにくい体づくりができます。

▽御嶽パノラマグラウンド

国内初の本格的な高地トレーニング施設として平成19年7月にオープン。標高1700mの準高地に全天候400mトラック6コース、500mのウッドチップランニングコースを備える市の施設。

▽飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア

小坂町濁河地区から高山市朝日町・高根町に広がる標高1200～2200mの高原地帯。日和田ハイランド陸上競技場(高山市高根町)や飛騨御嶽高原尚子ボルダーロードなどがある。エリアは文部科学省のナショナルトレーニングセンター強化拠点施設(高地トレーニング部門)に指定されています。



御嶽パノラマグラウンド

市は、小坂町落合にある県の施設「岐阜県御嶽少年自然の家」を借り受け、新たに高地スポーツトレーニング施設としての機能を備えた「濁河温泉・高原スポーツ・レクリエーションセンター(仮称)」を構築する計画だ。

市では地元からの存続要望があった経緯などを踏まえ、有効活用について県と協議を

重ねてきた結果、県から無償貸与を受けて、市施設として再開する方向になりました。市では、近隣にある市の御嶽パノラマグラウンド(小坂町落合)と一体的に活用するとともに、飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア内にあるトレーニング施設とも連携を図りながら、宿泊機能を備えた国内外のスポーツ選手の練習施設としていきます。

御嶽パノラマグラウンドを含む飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアは、全国の高校・大学・実業団などからアスリートたちが練習に訪れており、昨年度は約2万人が利用しています。また、外国からの利用実績



写真提供：岐阜新聞

エーションセンター(仮称)として、来年夏のオープンを目指し準備を進めることになりました。市では同センターのオープンで交流人口の拡大、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

重ねてきた結果、県から無償貸与を受けて、市施設として再開する方向になりました。市では、近隣にある市の御嶽パノラマグラウンド(小坂町落合)と一体的に活用するとともに、飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア内にあるトレーニング施設とも連携を図りながら、宿泊機能を備えた国内外のスポーツ選手の練習施設としていきます。

もおり、国内トップレベルの競技者などによる利用も期待されるため、利用促進に向け大きな弾みとなると考えています。

◇指定管理者制度を活用

施設の管理・運営には指定管理者制度を導入し、指定管理者には、高所トレーニングや低圧・低酸素トレーニング分野で卓越したノウハウを持つNPO法人高所トレーニング環境システム研究会(東京都町田市・代表 小林寛道(東京大学名誉教授・教育学博士))を予定しています。

【経営管理部総合政策課】